

## 食品に関するリスクコミュニケーション（東京）概要

～ 薬剤耐性菌の食品健康影響評価指針案に関する意見交換会～

1. 日 時：平成16年8月2日（月）13：30～16：30
2. 場 所：都市センターホテル コスモスホール（東京都千代田区平河町2-4-1）
3. 主 催：内閣府食品安全委員会
4. 参加者：127名（消費者、食品関連事業者、自治体関係者、報道等）
5. 議 事

開会挨拶 寺田雅昭 食品安全委員会委員長  
耐性菌問題、評価指針案等についての説明（40分）

「『耐性菌問題』の背景について」 唐木英明 肥料・飼料等専門調査会座長  
抗生物質と耐性菌の関係等耐性菌問題全体の概要を説明。

「家畜への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に  
関する評価指針案について」 井上松久 動物用医薬品専門調査会座長代理  
評価指針案策定の経緯、概要を説明。

意見陳述及び質疑応答（90分）

< 意見陳述人 >（五十音順、敬称略）

井坂 正勝 全国農業協同組合連合会飼料畜産中央研究所所長  
稲吉 克仁 養豚経営獣医師  
鬼武 一夫 日本生活協同組合連合会  
小若 順一 NPO法人食品と暮らしの安全基金事務局長  
西沢 耕治 明治製菓株式会社動薬飼料部開発グループ長  
八竹 昭夫 全国獣医事協議会副会長  
山浦 康明 日本消費者連盟副代表運営委員  
萬家 照博 社団法人日本科学飼料協会第二部会副部長

各7分間の意見陳述に続き、「薬剤耐性菌に関するワーキンググループ」委員との間で、各3分間程度の質疑応答が行われた。

会場参加者との意見交換（15分）

会場参加者2名から、質問（腸炎ピブリオ、リステリア菌は対象菌種からはずすべきではないか、健常者における耐性菌保持の状況はどうなっているのか）が出された。

総括（意見の整理） 唐木英明 肥料・飼料等専門調査会座長

- ・耐性菌の評価を始めることについて、理解が図られたと思う。また、本指針案について、総体としては、賛意を得られたことは心強い。
- ・指針案に関して、主な意見として、リスク評価の手法（定性的評価だけでなく、積極的に定量的評価を行うべきである）、評価の対象（水や土壌等の環境要因など広く検討すべきである、抗菌性物質を使用しない場合のリスク評価をすべきである）、ハザードの特定の際の対象菌種（不要のものがあるのではないかなど）が挙げられた。その他に農林水産省・厚生労働省等との横断的な対応、透明性、公平性を保った評価に努めるなどの意見もあった。ご意見・ご指摘を真摯に受けとめ、今後の指針の取りまとめの参考としたい。

閉会挨拶 小泉直子 食品安全委員会委員